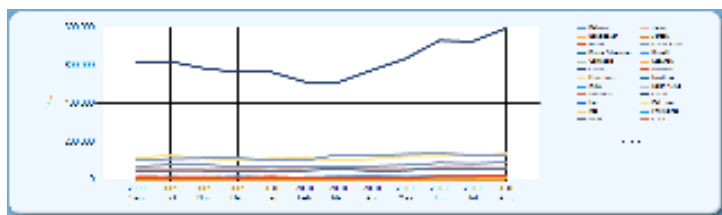


米国通関統計 8 月度輸入実績

アジア発の米国輸入は 7 月実績より 7.8%増加



Zepol Corporation (本社・米国ミネアポリス [www.zepol.com](http://www.zepol.com)) は、9月7日、米国税関 AMS データに基づき、8 月度海上輸入実績を:+7.83%と発表しました。

その中でアジア主要 10 カ国（中国、韓国、香港、台湾、日本、シンガポール、タイ、インド、マレーシア、ベトナム）からのコンテナ本数（TEU）実績は、横ばいだった 7 月に比べて+7.8%、昨年同月比では+25.2%と増加を示しました。ただし、日本発の 8 月実績は前月比-0.9%と横ばいでした。(Fig.1 参照)

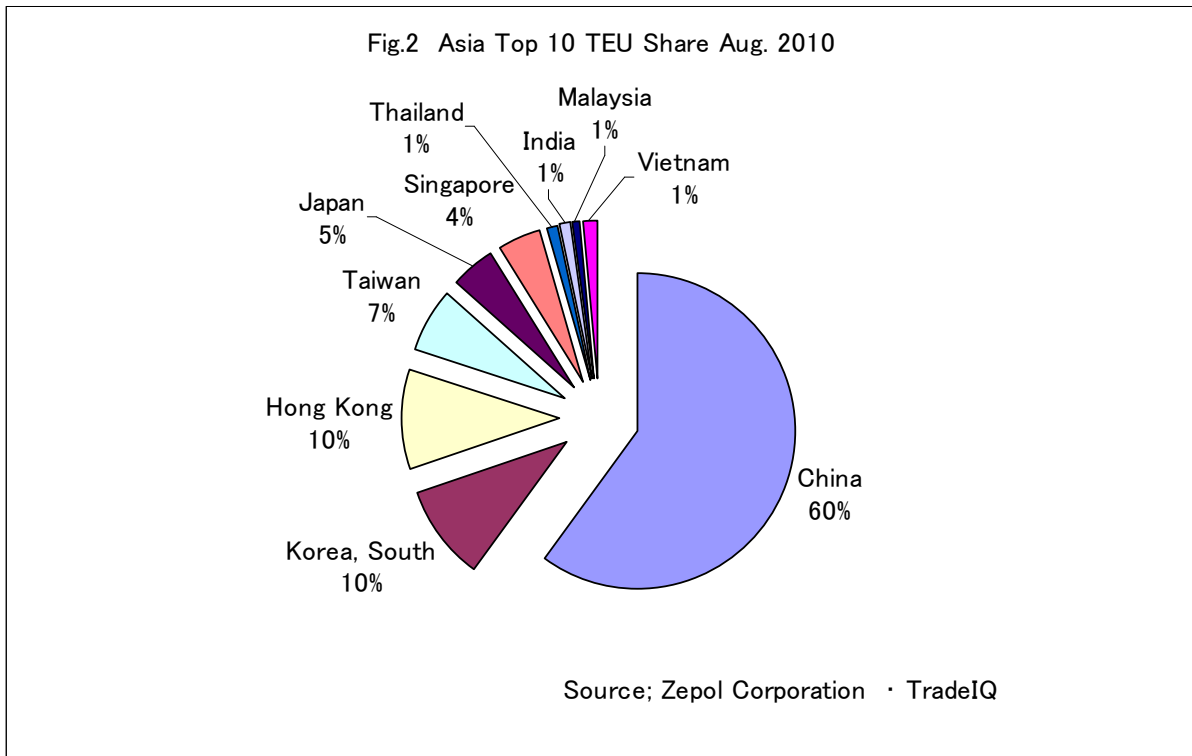
<b>Fig.1; USA Import from asia- August 2010</b>			
<b>Loading Port_Region</b>	<b>August 2010 (TEU)</b>	<b>Change Over July'</b>	<b>Change Over Aug.09/</b>
<b>1. China</b>	794,107	9.6%	15.23%
<b>2.Korea, South</b>	129,951	10.3%	13.4%
<b>3. Hong Kong</b>	134,665	10.7%	10.4%
<b>4. Taiwan</b>	88,384	10.0%	19.0%
<b>5. Japan</b>	60,897	-0.9%	10.8%
<b>6. Singapore</b>	58,434	12.0%	14.8%
<b>7. Thailand</b>	15,585	6.8%	39.6%
<b>8. India</b>	13,686	7.4%	38.6%
<b>9. Vietnam</b>	18,711	28.9%	225.7%
<b>10. Malaysia</b>	10,711	8.0%	-26.2%
<b>. Top 10 Total</b>	<b>1,325,131</b>	<b>7,8%</b>	<b>25.2%</b>

Source; Zepol Corporation-TradeIQ\*

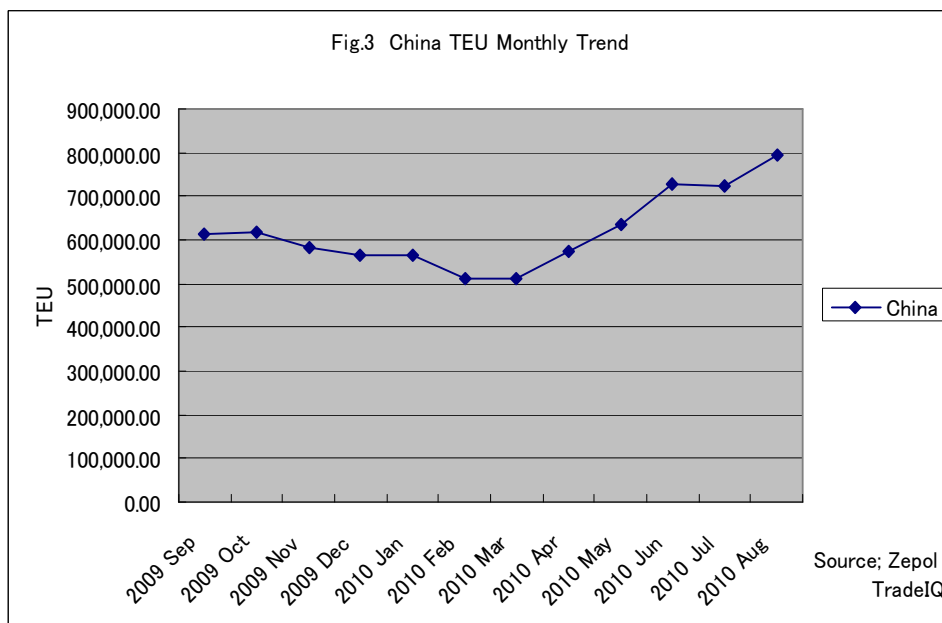
\*Note ; Zepol TradeIQ は、米国税関から公表される AMS(Automated Manifest System) B/L 記載データを Zepol 独自開発の検索エンジンによりデータベース化した米国貿易統計データです。毎日数万件に及ぶ B/L 情報に、パソコンから簡単にアクセスし、検索・ダウンロードが可能で、2003 年以来、幅広く活用されている分析ツールです。( [www.zepol.com](http://www.zepol.com) 参照)

アジア10カ国をさらに詳しく比較すると次の点が注目されます。

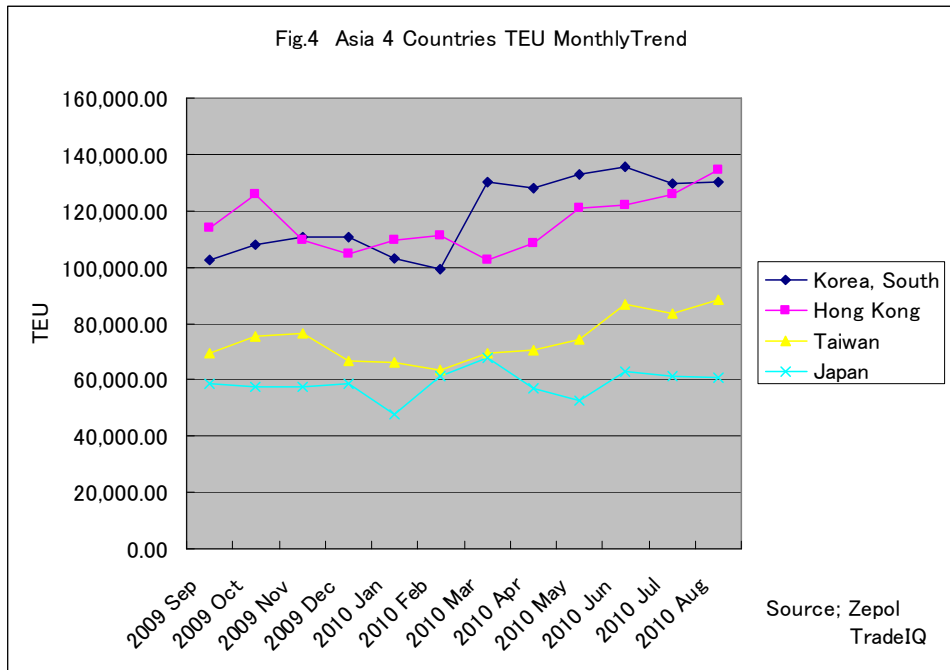
- アジア10カ国からのコンテナ貨物量 TEU シェアは、中国を追う4カ国（韓国、日本、香港、台湾）がシェア順位を争う形で推移しています。(Fig. 2 参照)



- 中国と4カ国（韓国、香港、台湾、日本）の TEU の月別推移を見ると、韓国、と香港が日本を越えて、2-3位争いをしている形です。(Fig.3, Fig.4 参照)

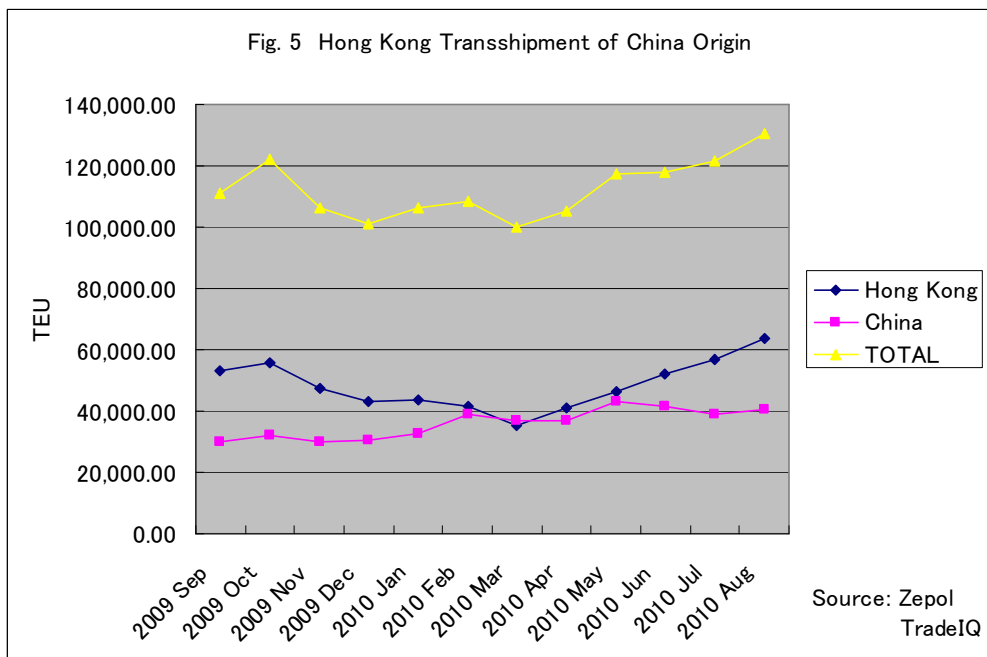


(2)



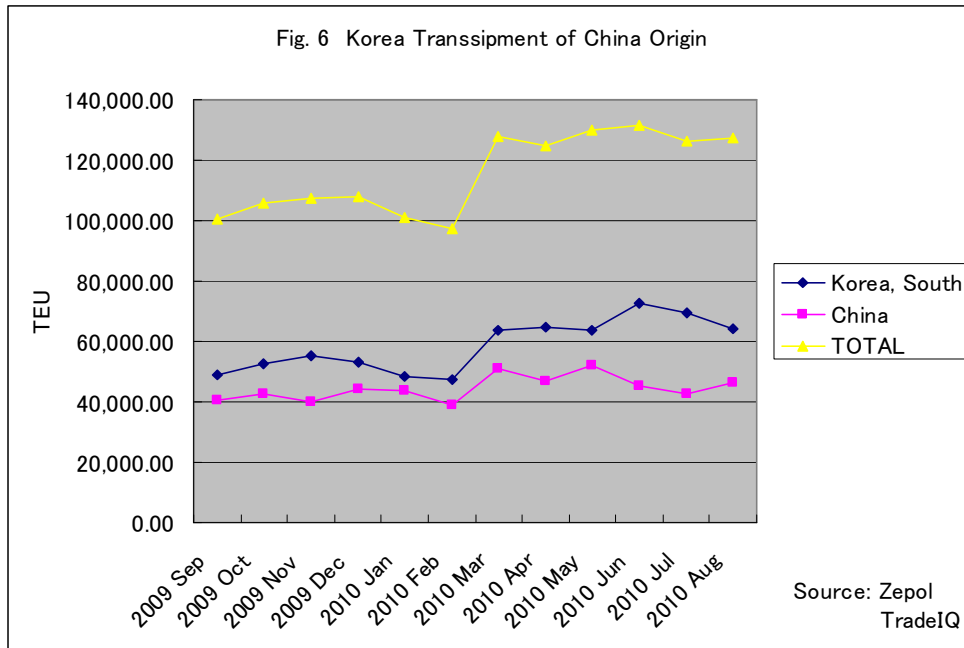
- 香港と韓国からの輸出実績について注目されるのは、トランシップ (Transshipment) の占める割合が大きく、自国以外の場所を荷受地 (Place of Receipt) とする貨物が、香港の場合 52%、韓国の場合も 50% (8月実績) あり特に中国からのトランシップが香港の場合で 36%、韓国では 22% (同上) を占めています。

両国について、その推移を月別に分析したものが下記のチャート (Fig. 5, Fig. 6) です。 B/L上の Port of Loading (積地港) ベースの輸出実績 Total と、内訳として Place of Receipt (荷受地) をベースに中国からのトランシップ TEU の推移を示しています。同時に両国の自国分の実績もそれぞれ示されています。



(3)

香港の場合、歴史的にも Entrepot Trade は伝統的な発展基盤ですが、現在の対米 TEU 月別推移(Fig.5)を見ると、中国からのトランシップの伸びは中国全体の成長カーブ(Fig. 3)には連動しないで、ほぼ横ばいの状態です。因みに中国以外のアジア諸国からのトランシップはベトナム、タイ、インドネシア、マレーシアなどが残り(22%)の上位を占めています。



韓国は釜山港を背景に、中国からのトランシップ量(Fig. 6)が、香港における中国分(Fig. 5)とほぼ同じ量(4 - 5 万 TEU)で推移しています。因みに日本(主に博多港)からのトランシップは2番目のシェア(約 5%)を占め、残りはベトナム、インドネシア、台湾などがつづき、韓国発米国向け TEU の半分がトランスシップ分で構成され、アジアのハブ港の役割を果たしています。

- 対米輸出アジア Top 5 (中国、韓国、香港、台湾、日本) の TEU シェアを比較するとき、Port of Loading (積出港) ベースの統計 (Fig. 1)を、上記のように Place of Receipt (荷受地) ベースに置き換えてみると、香港、韓国、のシェアは下がり、日本、台湾との4カ国間のシェアは接近します。勿論、中国のシェアは更に大きくなり、Top 5 の間では 77% (日本は8%) となります。(8./11/2010 付け Zepol ニュースリリース 参照)

以上

本件に関するお問い合わせ先：

日本：Zepol Japan [mnanseki@zepol.jp](mailto:mnanseki@zepol.jp)

米国：Zepol Corp [kevin.palmastein@zepol.com](mailto:kevin.palmastein@zepol.com)

(4)